

とちぎ米産地だより 【8月号】

<24年産のとちぎ米に関する情報をいち早くお届けします！>

第5号 平成24年8月8日
発行責任者:JA全農とちぎ 米穀課

1. とちぎ米生長日記

●県内の水稻生育概況(7/20栃木県農業試験場発表)

- ・草丈はやや低い。
- ・茎数は少なく、葉色はやや淡く、生育量は小さい。
(ただし、第3号発行時の状況と比較すると、平年との差は縮まった。)
- ・出穂期は平年より2~3日程度早い見込み。

- 間断かん水により、しっかりとした稲作りに努めます。**
- 掛け流し灌水により水温を下げ、高温障害を予防します。**



(7/27撮影:県北地区なすひかり)

2. 平成24年産栃木米取扱拡大会議を開催しました。

平成24年8月1日(水)東京都内のホテルの会場で、平成24年産栃木米取扱拡大会議を開催しました。

日ごろより栃木米をご愛顧いただいておりますお取引先様をご招待させていただき、また、県内全JAの役職員の方々にもご出席いただき、24年産JAグループ栃木のコメの集荷・販売方針の説明、産地・消費地それぞれの情勢報告、お取引先様と産地の意見交換を行いました。

お取引先様からは、栃木米に対する期待や重要性をご説明いただき、産地としてその期待にこたえるべく、24年産の最重要課題である集荷拡大に向けて、JAグループ栃木が一丸となって取り組むことについて決議しました。



(会長挨拶)



(県本部長によるまとめ)



(副会長による決議)



(とちぎ米販促品)

3. 栃木県内のイベント情報

うつのみや花火大会

真心

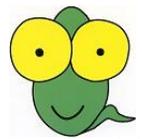
- ◆開催日時:2012年8月11日(予定・雨天時12日に順延予定)
- ◆開催時間:大会開始 午後7時 花火打上 午後7時30分
- ◆打ち上げ発数:総発数 2万発 予定

うつのみや花火大会は人出35万人と県内屈指の規模を誇る花火大会です。2003年に一度途絶えてしまいましたが、2007年から市の支援を受け、市民ボランティアによる運営で復活させました。今年のテーマは「真心」。震災を経験し、一番大切なものが何かを感じる日々である今こそ、大きなことではなく、目の前にいる大切な家族や友達、恋人に本当の強さや優しさ、自分自身の本物の思い「真心」を届けたいという想いが込められています。

当日は、中心市街地に人を集めるためのパブリックビューイングや、ジャズの街うつのみやを盛り上げるためのオールジャズによる音楽構成、カクテルの街宇都宮のアピールでオープニングでのカクテルスターメインが挙げられます。この様な企画や活動を通じて宇都宮市の活性化を図っています。



3. 産地紹介 ～栃木県内のJAを紹介します！～



JAうつのみや

～ 地域No. 1を目指して ～

当地区は、県のほぼ中央に位置し、県都宇都宮市を中心に、上三川町、下野市の一部(旧南河内町)の2市1町を管内としています。管内は、農業・工業・商業の調和のとれた住み良い地域で、県北西部に源を発する利根川水系の鬼怒川・田川・姿川の各河川流域の平地を中心として水田地域を形成し、この平地間に介在する東西の各台地に畑作地域を形成しています。

米麦を基幹とする管内では、平成12年産米より、管内産コシヒカリの中から食味計で厳選した米を『みやおとめ』と命名し、地元消費者を中心に販売しています。

畜産では、昭和47年頃から東京食肉市場への本格的な肉牛出荷が始まり、『宇都宮牛』の名で全国10番目の銘柄牛として指定されました。宇都宮牛は、厳選された黒毛和牛の素牛を、JAうつのみや管内の生産農家が丹精して育て上げた逸品です。

これらに加えてイチゴ・トマト・ニラなどの園芸作物や梨・リンゴなどの果樹などの複合経営が営まれ、人口50万人超の大消費地・宇都宮市を抱える恵まれた立地条件を生かし、都市近郊型農業が展開されています。

また、農業生産を主とする地域と、市街化商業地帯を有し資産運用を主とする地域の二重構造となっており、地域に即した農業経営が営まれています。「品質の優れた食料の安定供給」と「安心してゆとりある生活の支援」を使命に掲げ、組合員をはじめJAをご利用いただく全ての皆さまに「JAを利用してよかった」と評価していただけるよう、日々事業に取り組んでおります。



共同乾燥調製施設について

JAうつのみやには共同乾燥調製施設として8基のライスセンター、5基のカントリーエレベーターと、ラック倉庫という玄米で荷受する施設があり、合計13の施設で荷受を行っています。共同乾燥調製施設全体の施設能力は乾籾ベースで22,577トンありますが、23年産米では、約1,130トンの余力があり、24年産米では利用率100%を目指して集荷に取り組んでいます。

その取り組みの一つとして、施設の広域利用を推進しており、対策として平成16年度より生籾の横引きも実施しています。これは、施設から遠距離にある生産者の希望により、店舗事務所や農業倉庫を荷受基地として設定し、荷受基地でコンテナを預かり、施設へ搬入するものです。23年産では2基地・3施設が該当しており、利用者人数、利用トン数とも増加傾向で推移しています。

また管内は環境に配慮した「こだわり米」の作付けを推進しており、24年産米では新設した北部地区カントリーエレベーターで「特別栽培米」の施設荷受けを予定しています。これまで管内南部地区の南河内ライスセンターにおいて「特別栽培米」の施設荷受けをしていましたが、2基目の「特別栽培米」の荷受施設として、また北部地区の中核的役割を担う施設として、卸の皆様にも良品質米を提供できるよう期待するところであります。



◆ 新北部地区カントリーエレベーター ◆



※ 問合せ先 ※

◆ 内容に関する、ご意見、ご質問、ご感想も、是非、お寄せください。
JA全農とちぎ 米穀課 電話:028-626-2174 FAX:028-621-2037